

2026年度一般選抜入学試験(昨年度実施)の出題方針と学習のポイント

過年度の一般選抜入学試験問題を立命館大学の入試情報サイトで公開しています。
立命館大学入試情報サイト (<https://admission.ritsumei.ac.jp/admission/>)



※出題内容・形式・配点は一例です。年度・試験日によって、異なることがあります。
※合計点が各学部(専攻等)および各入学試験方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

英語 全方式共通

【出題内容・形式・配点】

内容	形式	配点	試験時間
I 長文総合問題	マーク	29	80分
II 長文総合問題	マーク	31	
III 会話文	マーク	24	
IV 文法・慣用句	マーク	16	
V 語句選択英文完成	マーク	20	
合計		120	

【出題の基本方針】

立命館大学の諸学部において教育を受けるに相応しい、基本的な英語力を備えた受験者を選抜するために、高等学校卒業段階で到達すべき英語力を公正に測定できる内容で出題することを基本方針とした。出題形式に関して、昨年度からの変更はない。

【各設問の方針と内容】(全日程共通)

I 750～850語程度の英文をもとにした、大意把握と内容理解の力を試す問題である。[1]は、英文の意味・内容に関する問が英語で提示され、[2]は、与えられた5つの文が英文の内容と一致するか否か、あるいは英文の内容からだけでは判断できないかを問う、より正確な内容理解を試す問題である。[3]は、英文を総合的に理解しているか(主旨の理解ができていないか)を問う。

II 750～850語程度の英文の内容理解を試す問題で、細部の正確な理解が要求される。[1]は文中の空所に当てはまる語(句)を選ぶ問題である。空所の直前・直後だけでなく、英文全体の話の流れを正確に把握する必要がある。[2]は英文の中の代名詞などの語(句)が、何を指しているか、何を意味しているかを、選ぶ問題である。何かを指示する語(句)が具体的に何を意味しているかを意識的に考えながら読むことによって正確な理解ができていないかを試す。

III 二人の対話文をもとにした問題である。対話中の空所を埋めるのにもっとも適当な表現を選択肢から選ぶ形式である。さまざまな場面で、話の流れを正確に掴みながら話し手の意向や気持ちなどを理解することができるか、また、適切な表現で応答し必要な情報を伝えることができるかを試す。人との関係を円滑にする(挨拶や呼び掛けなど)、相手の行動を促すなど、いろいろな言語の働きをする英語表現に親しんでおくことが必要である。

IV 文法事項に関する問題である。空所を埋めることによって英文を完成させる問題である。基本的なものを中心に、動詞、副詞、形容詞、接続詞、前置詞など様々な品詞に関して、適切な英語で表現する力を試す。

V 語彙に関する問題である。[1]は英文の空所を埋めるのにもっとも適当な単語を選ぶ形式で、文脈から語を導き出す問題であり、[2]は、文中の下線部と同じ意味の語を選択する同義語の問題である。教科書に出てくるような基本的な語彙をはじめ、自立した英語使用者に必要な語彙を幅広く身につけておくことが期待される。単に単語の意味を知っているのではなく、その単語が英文の中でどのように使われるか、連語関係などにも注意を払いながら学習しているかが試される。さらに、その単語を他の単語で置き換えることができるかどうかを試されている。一つの単語に対する一段と深い理解が必要となる。

【学習のポイント】

- 文章全体の構成に注意を払いながら、論理の流れを理解しよう。文章の大意を取ることができたら、今度は一つ一つのパラグラフが何を言っているのかをキーワードなどを使って短い語句で示し、掴みながら、次のパラグラフに進んで行こう。そうすれば、細かい部分も正確に把握できるし、論理的な流れも正確に掴めるはずである。英文を効率よく、正確に読むためには、日頃から精読と多読をバランスよく行うことが大切である。文章を要約する練習も効果的だろう。
- 会話文や慣用的な表現には、普段からインターネット上にある会話ビデオや映画などを活用して、楽しみながら親しもう。面白い表現などをノートに取って見直すのも役に立つだろう。1週間や1ヶ月毎に最初から見直し、実際に口に出して言うことも大切である。同じ状況に遭遇すれば、自然に言葉が出てくるだろう。
- 語彙は言語習得の基礎中の基礎である。CDやDVDのついてる単語集やインターネット上にある単語学習プログラムなどから気に入ったものを選び、耳で聞き、同時に口ずさみ、目で確認し、意味を考えながら書くなど、すべての感覚を使って覚えると効果的である。そうすれば、リスニング、リーディング、スピーキング、ライティングの力を総合的に伸ばすことにもつながる。文脈の中で覚えることも大切である。文章や会話の中で単語がどのように使われているのかを意識しながら覚えていこう。

英語 国際関係に関する英文読解(IR方式)

【出題内容・形式・配点】

内容	形式	配点	試験時間
I 気候正義を求める太平洋諸国の学生の取り組み	記述(日本語)	50	80分
II NATO加盟国における防衛費の引き上げ	記述(英語)	50	
合計		100	

【出題の基本方針】

入学後の授業等で実際にテキストを読む場面を想定し、国際関係における今日的課題を扱った英文を素早く読み、概要を把握する力を試すことを目的とした。題材は、今日的な国際関係の主要問題を扱った。

【学習のポイント】

- 国際関係学は国際関係における政治的、経済的、文化的側面について幅広く扱う学問分野である。国際関係学的な感性を養うためには、世界で何が起きているのか、問題となっているのかを把握し、自分なりの意見を形成することが求められる。こうした力を身につけるには継続してニュースに親しむ必要がある。例えば、報道機関のニュースダイジェスト(できれば英語)を視聴する、英語の新聞の見出しを通読するなどを毎日行うことで、テキストが何を問題としているのかを大まかに把握する力を身につけることができるだろう。そのうえで、自分がどう考えるか、意見を形成することを習慣づけると入試だけでなく、実際に学部で学ぶ際に大いに役立つはずである。

※出題内容・形式・配点は一例です。年度・試験日によって、異なることがあります。
※合計点が各学部(専攻等)および各入学試験方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

国語 全学統一方式・学部個別配点方式

※出題内容・問題番号・配点は2月1日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間
一 現代文	マークと記述を併用	45	80分
二 現代文 ※1	マークと記述を併用	15	
三 古文	マークと記述を併用	40	
四 漢文 ※1	マークと記述を併用	15	
合計		100	

【出題の基本方針】
現代文の出題では、高等学校での学習による基本的な知識を前提として、語彙力や読解力を問うことを目的としている。文章全体の流れの中で語句を適切に理解しながら、文章の読解が進み、主題の把握へとつながるように、問いの順番を考慮して出題する。

<p>【学習のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none">まず、文章全体の大意を把握し、そのうえで、文章がどのように構成されていて、個々の文章や語句がどのように位置づけられているかを理解できるよう心がけること。 <p>☆現代文</p> <ul style="list-style-type: none">評論文で使われる概念や比喩的な表現の理解が必要となる。普段から評論文を読み、頻出概念や比喩的な言い回しに慣れておくこと。そのうえで、ある程度の長さの評論文を短時間で理解する訓練が重要になる。 文学的な文章では、人物の心情の読み取りが必要になってくることがあるが、その根拠となる表現を文章中から見つけるよう心がけてほしい。 問題文では筆者独自の表現や考えが展開されることもある。自身の知識や先入見にとらわれず、文章中のキーワードを把握し、筆者が言わんとしていること、文章が示しているものを的確に理解することを心がけてほしい。 繰り返しや、言い換えなどで強調されている部分・語彙は、作者が主張したい内容であることが多い。文章の主旨を理解する際、注目していきたい。 接続詞の使い方や意味を的確に理解し、文脈の流れや文章の構造を捉えることができるようにすること。 語彙・句法・表現技法・四字熟語等については、普段から評論文に親しみ、自分にとっての初見の語句があれば、辞書を活用し、調べる習慣を身につけたい。 漢字は、文脈の流れの中で理解できるようにしておくこと。同音異義語にも注意しておくこと。また、漢字の書き取りは、書き順を理解したうえで、丁寧に正確に書く練習をしてほしい。 文学史については、単なる作者や作品名の暗記ではなく、文学史の流れの中に位置づけ、また描かれたテーマとともに記憶しておくこと。 <p>☆古文</p> <ul style="list-style-type: none">古文は、基礎的な語彙や基本的な文法の知識をしっかりと身につけ、それを踏まえて正確に読み取ることができるよう学習しておくこと。 現代語訳を課す問題については、基本的な語彙やその組み合わせによる意味を問う問題である。正確な現代語訳ができるよう訓練しておくこと。 古文の文章の流れを理解する上で、動作の主体が誰かを把握することは不可欠である。日頃から、敬語表現にも留意し動作主体を必ず補いながら読むなどの丁寧な読解を心がけておくこと。 古文には和歌を含む作品もあるため、和歌の技法・形式についても理解しておくこと。文学史的な知識も学習すること。 <p>☆漢文</p> <ul style="list-style-type: none">漢文は、基本的な知識を問う問題である。高校の教科書で学習する句形や語の意味をきちんと理解して、文章読解の基本的な力をつけておくこと。

国語 共通テスト併用方式・後期分割方式

内容	形式	配点	試験時間
一 現代文	マーク	50	80分
二 現代文	マーク	50	
合計		100	

<p>【学習のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none">論理的な文章が読解できるためには、文脈の中で語句の意味を理解し覚えること、論理的に思考するためのツールとしての概念語（抽象語）が使いこなせること、文章の構造を大局的・俯瞰的に把握でき、筆者の思考や論理の道筋を正確にたどれることが必要である。 様々な話題に興味・関心を持ち、教養書や新聞の社説・文化欄なども意欲的に読み、幅広い読書を通して、精密で批判的な思考を可能にする豊かな概念と語彙を養ってほしい。また、偏りのない判断や批判的思考が可能となるよう、ことばを自覚的に運用できる力を身につけることも心がけてほしい。

選択科目（公民） 政治・経済

※出題内容・問題番号・配点は2月1日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間
I 国際法と条約	記述	35	80分
II 財政のしくみと機能	記述	35	
III 日本国憲法の制定と基本原理	記述	30	
合計		100	

<p>【学習のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none">基本的に教科書、用語集に記載された事項からの出題である。教科書は本文だけでなく、側注や図表、年表、資料にも目を配り、用語集や資料集などで補って学習を深めること。 事項や語句は、単なる暗記ではなく、歴史的経緯や、他の単元・項目の内容と関連づけて学ぶこと。より深く、正確に理解することで記憶が定着しやすくなり、応用的な出題にも対応できるようになる。 時事問題に関心を持ち、知識を得るよう心がけること。いま生じている国内外のさまざまな社会的課題と関連づけることで、政治や経済の基本的な考え方や理論が身近なものになり、理解が深まる。教科書の時事テーマを扱う部分を手がかりに、報道などで情報を補いつつ学習を進めるとよい。 文章を正確に読み理解すること、字句を正確に記憶し記述することは、この科目に限らず重要である。せつかく身につけた力を存分に発揮できるよう、意識して取り組むこと。
--

※出題内容・形式・配点は一例です。年度・試験日によって、異なることがあります。
※合計点が各学部(専攻等)および各入学試験方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

選択科目（地理歴史） 日本史

※出題内容・問題番号・配点は2月1日実施分です。

方式	学部	解答する問題
全学統一・学部個別	文学部	一、二、三または一、三、四
	上記以外	一、二、三

※1 文学部では、「二 現代文」と「四 漢文」は選択問題です。
なお、文学部以外では漢文の独立問題は出題しません。

古文・漢文も文章全体の主旨を正確に理解できるかどうか、受験生の読解力を問う問題を中心に出題する。その際、読解の前提である文法や語彙などの基礎知識の習得がなされていることを確認するための問題も出題する。

※出題内容・形式・配点は一例です。年度・試験日によって、異なることがあります。
※合計点が各学部(専攻等)および各入学試験方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

選択科目（地理歴史） 日本史

※出題内容・問題番号・配点は2月1日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間
I 古代の広域行政や対外交渉	記述	30	80分
II 中世の文化史	記述	30	
III 近代・現代の日本人移民	記述	40	
合計		100	

<p>【学習のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none">政治・経済・社会・文化史などの諸分野を幅広く学習することが重要である。やはり近現代文化史は受験生にとって苦手な傾向が見受けられるので、苦手意識を持たず、意欲的に学習してほしい。 教科書を中心に諸事件・事象の流れと関係を論理的・文脈的に把握することが重要である。それと同時に教科書や史料集に所載されている図版・表・写真などにも注意を向けてほしい。 史料集や用語集を座右に置き、教科書と併用することは極めて効果が高い。その史料の趣意を記した重要箇所などは、用語を含めて内容を正確に理解しておきたい。 一方向からだけの問いではなく、多方面からの問い方に対応できないと正答できない問題を含んでいるため、そうした出題形式にも慣れておく必要がある。 漢字のミスや部首などの不正確な記述、判読しにくい漢字が依然として目立つ。それらに対しては厳正に対処し、誤答として扱うので注意が必要である。事象名・人名・地名などの歴史用語は正確で楷書体の読みやすい漢字を書くことが必須と心得てほしい。 近年の高校教育の趨勢に準拠し、比較的新しい時代の出題の割合を増やしている。今後はそれらに関する系統だった正確な知識の習得が必要となる。 歴史総合との兼ね合いから、世界との関わりについては、今後も問う機会が多くなるだろう。そのため、どの時代においても、日本と世界の動向を交差させながら学習を進めていくことが好ましい。その際、地図や地理的状況を踏まえた設問にも対応できるような思考力を磨くことを心がけてほしい。

選択科目（地理歴史） 世界史

※出題内容・問題番号・配点は2月3日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間
I 唐代までの中国における税制と土地制度	記述	20	80分
II 16世紀以降のアジアにおけるイエズス会の活動	記述	20	
III 8世紀末までのキリスト教の歴史	記述	30	
IV ゴヤ作「カルロス4世の家族」にまつわる歴史	記述	30	
合計		100	

<p>【学習のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none">ある歴史上の出来事について、それが発生した直接的な原因だけでなく、それが発生した歴史的背景、さらにその出来事が次の歴史展開にどのような影響を与えたのかについてもよく理解しておく必要がある。歴史を流れとして理解するためには教科書を何度も読み返したうえで、教科書より少し詳しい参考書を読むのがよい。 世界史の学習に際して、ある時代・地域の歴史展開を地理的にイメージできるようにしておくことも重要である。教科書などを読みながら図版でその地理的展開を確認するとイメージを形成しやすい。 世界史学習そのもののポイントではないが、受験本番で問題を解く際には問題文をしっかりと読み込むこと。世界史の出題では、問題文全体の内容理解を前提として設問（空欄）を考えさせるという出題を心がけているので、空欄の前後だけでは正答にたどり着けないことも多い。文章読解力は大学入学後に最も必要となる学力の一つでもあるので、日頃から内容をしっかりと考えながら文章を読む練習をしておくように。

選択科目（地理歴史） 地理

※出題内容・問題番号・配点は2月1日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間
I 読図(地形図)	記述	31	80分
II 系統地理	記述	34	
III 地誌	記述	35	
合計		100	

<p>【学習のポイント】</p> <ul style="list-style-type: none">教科書全体を熟読し、内容を適切に理解するとともに、地名・語句を正しく表記できるようにしよう。地域や地名については、地図帳を用いて位置を正しく把握すること。また、統計データやグラフ・表などの資料が掲載されている場合には、それらを読み取ることのできる理解力を養う必要がある。単に用語を暗記するのではなく、用語を説明できるとともに、地理的な現象の背景にある要因も思考できる力を身に付けよう。 地図帳のみならず、地形図や「地理院地図」などのウェブ上の地図にも日常的に親しんでおくといよ。地形図ないし「地理院地図」を用いた身近な地域の観察を通じて、地図を読み解く力は高まる。 多様なメディアで報じられる日々のニュースには、系統地理や地誌と関わる事項が多分に含まれている。新聞だけをとりても、世界の特定地域の地図が毎日のように掲載されている。現代社会の状況にも関心をむけて、地理的な理解力を育む努力も欠くことはできない。
--

【出題の基本方針】

基本的には教科書を中心とした学習を積み重ねることによって得点できる内容・レベルの出題とした。そのうえで、歴史用語の機械的丸暗記では正答できない出題を織り交ぜることを心がけた。

※出題内容・形式・配点は一例です。年度・試験日によって、異なることがあります。
※合計点が各学部(専攻等)および各入学試験方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

選択科目(数学) 全学統一方式(文系)、学部個別配点方式(文系型)

※出題内容・問題番号・配点は2月1日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間	
I データの分析、指数関数、平面ベクトル	記述	40	80分	
II 2次関数、確率	記述	30		
III 三角関数、2次方程式*	記述	30		
合計		100		

【出題の基本方針】
高等学校で学ぶ数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B(数列のみ)、数学C(ベクトルのみ)の範囲における基礎的な内容の習得や知識・理解の程度を判定し、本学の文系学部で学ぶために必要な論理的思考力や直観力、表現力等を評価することを目的としている。
問題は、受験生が学ぶ教科書の例題および応用問題(章末問題)を参考している。特に大問Ⅱでは読解力や社会の現象を数学的に考える力、大問Ⅲでは、思考過程を論理的に表現する力を問う問題としている。

【学習のポイント】
・教科書の例題や応用問題(章末問題)を丁寧に解くことが重要である。
・解答数の多さに惑わされず、順序だてて解答してほしい。基礎的な問いから始まっていることから、途中であきらめないで解答してほしい。
・大問Ⅰは、基礎的な問題として、教科書の例題や章末問題を丁寧に取り組むことで十分解答できる問題である。ただし、公式を暗記するだけではなく、理解して使う力が求められる。
・大問Ⅱは長文問題として題意を正確に把握し、社会の現象を高等学校で学んだ数学の内容と関連づけて理解すれば難しい問題ではない。特に問題文を読解する力、数学的に考える力(思考力)、判断力を評価している。
・大問Ⅲは、教科書の応用問題(章末問題)や問題集の中難度の問題に取り組むことによって十分解答できる。基礎的な内容から応用へと思考過程を順序だてて表現する学びをしてほしい。

*2027年度入試より、大問Ⅲの解答の形式を大問Ⅰ・Ⅱと同じ穴埋め式に変更します。出題方針や問題の傾向は大きく変わりません。

数 学 理系型3教科方式、薬学方式

内容	形式	配点	試験時間	
I 三角関数、指数・対数、データの分析	記述	25	100分	
II 微分、積分	記述	25		
III 空間図形、ベクトル	記述	25		
IV 確率、集合と論理	記述	25		
合計		100		

【学習のポイント】
・方程式、図形、三角関数、指数・対数、微分・積分、級数、数列、確率、データの分析などに重点を置き、高等学校レベルの基礎学力を測ることを基本方針としている。
・教科書を何度も繰り返し読んで定義と基本的な考え方を理解し、定理を証明したり教科書の問題を確実に解いたりできるようにすることが大切である。グラフや、上面図、平面図、正面図、側面図などを描きながら学ぶことを勧める。計算力を高め、教科書に書いてある各項目の相互の関連を考えながら応用問題に取り組むことが望ましい。
・ただ問題と解法を眺めるだけでは、実際の問題に取り組んだ時に正解にはたどりつけないことが多い。自分で解き、計算する訓練をしっかりしてほしい。

数 学 全学統一方式(理系)、学部個別配点方式(理科1・2科目型、情報型理系)、共通テスト併用方式、後期分割方式

※出題内容・問題番号・配点は2月2日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間	
I 2次曲線	記述	25	100分	
II 空間ベクトル	記述	25		
III 数列	記述	25		
IV 法線問題に絡む軌跡の問題	記述	25		
合計		100		

【学習のポイント】
・受験生は、教科書において用いられている概念をきちんと確認する習慣を身につけてほしい。例えば、任意の点Aに対して $\vec{AA}=\vec{0}$ となる。また、問題に取り組む際は、いきなり計算をするのではなく、与えられている条件は何であるかよく文章を読んでほしい。大問Ⅳの場合のように、最初の取り組みとして図を書いて考察するのも有効である。

※出題内容・形式・配点は一例です。年度・試験日によって、異なることがあります。
※合計点が各学部(専攻等)および各入学試験方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

理 科 物理

※出題内容、問題番号、配点は2月2日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間		〈解答する問題について〉		
I 力学	マークと記述を併用	33	80分		方式	型	解答する問題
II 電磁気	マークと記述を併用	33			学部個別配点	理科1科目型	I、II、III(全問解答)
III 熱	マークと記述を併用	34				理科2科目型	I、II(IIIは解答しない)
合計		100					

【出題の基本方針】
高校物理の教科書「物理基礎」「物理」および学習指導要領に準拠し、力学、電磁気学に加えて、波動と光、熱、原子の各分野からバランスよく出題することを基本方針とした。
物理的な思考力を必要とする設問を基本としつつ、用語や知識

【学習のポイント】
・物理に限らず何事もそうであるが、まず基礎知識をしっかり身につけよう。物理の学習においては、物理現象が起きるしくみをよく考えて、本質を理解することを心がけておくこと。使えない公式を暗記していても意味はないが、使えるならば公式は役に立つだろう。使える公式にするためには、それが表している物理法則の本質を理解していなければならない。使える公式にするためには問題演習が役に立つが、解ければいいというのではなく、どういう物理的な考え方をすればよいのかということを意識しながら、1つ1つ進めよう。
・立命館大学の物理の問題は、問題文を読み進めながら問題を解いていくようにになっている。そのため、文章を正しく論理的に読み解く力が必要である。問題文の誘導に従って順序立てて考えるだけで正答できる問題もあるため、普段の学習や問題演習でも、教科書や問題文のポイントを意識し、文章を正しく読み解くことを意識するとよい。また、問題文中の解答の指定(文字定数の限定など)に従っていない「もったいない」解答が見られる。その点からも問題文を注意深く読むことは重要である。
・物理学を始めとする自然科学は量を扱う。量は(円周率などの無次元量を除いて)「数値部分+単位部分」から成り立つ。両方合わせて一つの量なのであって単なる数値ではない。正しく理解しておくこと。また、cmやmmやμmも正しい単位であり、接頭語がついた単位も基本的なもの扱えるようになるう。
・答えは丁寧な字で書くことを心がけておくこと。

理 科 化学

※出題内容、問題番号、配点は2月3日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間		〈解答する問題について〉		
I 物質の状態・変化・平衡	マークと記述を併用	25	80分		方式	型	解答する問題
II 無機化学	マークと記述を併用	25			学部個別配点	理科1科目型	I、II、III、IV(全問解答)
III 有機化学	マークと記述を併用	25				理科2科目型	I、II、III(IVは解答しない)
IV 高分子化学	マークと記述を併用	25					
合計		100					

【出題の基本方針】
大問4つで、無機化学分野から1題、理論化学分野から1題、有機化学分野から2題の出題とした。高校化学の教科書の内容を十分に学習しておけば解答できる基礎学力を測ることを基本方針とし、暗記偏重とならない出題でまとめるよう努めた。加えて、いずれの分野についても、受験生の計算力と数学力を測る問題を組み込んだ。難易度の高い問題はヒントを与え、解答を誘導するような配慮を加えた。

【学習のポイント】
・教科書を中心に、無機・理論化学分野から有機化学分野まで幅広く学習し、基礎知識を確実に身につけたうえで、思考力や応用力を養うことが重要である。
・どの分野においても、計算問題では正答率が低くなる傾向がある。化学では数値化することが大きな意味を持つ。日頃から意識して計算問題を解き、十分な鍛錬を積んでほしい。
・無機化学の学習は、単にある元素の特徴のみを理解するのだけでなく、オキソ酸のように横断的な元素に関する問題にも対応できるような学習をすることが重要である。過リン酸化石灰に関する計算についても、反応式を正しく理解して、計算ミスの無いように心がける必要がある。
・有機化学の学習では、構造(不斉炭素)、性質、反応を体系的に関連付けて理解することが重要である。
・化合物名や化学式(構造式)や化学用語を記述する際には、正確に表記することを意識してほしい。乱雑な記述は減点の対象となったり、正解とならない場合もある。
・記述問題では誤字脱字や乱暴な表記が散見されたので、日頃から丁寧に正確な記述を心がけることを促したい。
・暗記偏重でなく、基本的な事項の理解のうえに思考力や応用力を磨く訓練をしてほしい。問題文をよく読み、論理的に鍵を解くように回答を導く能力が問われている。初めてみる問題では戸惑うことが多いと思うが回答することは可能である。

理 科 生物

※出題内容、問題番号、配点は2月2日実施分です。

内容	形式	配点	試験時間		〈解答する問題について〉		
I 遺伝子とタンパク質の構造と性質	マークと記述を併用	25	80分		方式	型	解答する問題
II 免疫のはたらき	マークと記述を併用	25			学部個別配点	理科1科目型	I、II、III、IV(全問解答)
III 遺伝情報の発現と発生	マークと記述を併用	25				理科2科目型	I、II、III(IVは解答しない)
IV 植物の環境応答	マークと記述を併用	25					
合計		100					

【出題の基本方針】
「生物」および「生物基礎」で学ぶ総合的な知識を問うとともに、習得した知識を活かし、論理的に判断し表現する力についても問う内容とした。

【学習のポイント】
・「生物」「生物基礎」で学ぶ範囲は広く、多階層にわたっているため、全体をむらなく学習する必要がある。生命現象は、物理や化学の原理に則っているため、なぜそのような現象が起きるのか、原理を理解することが応用の効く学習につながる。
・まずは教科書を中心とした学習に取り組んでもらいたい。最新のトピックにも興味を持ち、生物学の背景にある原理を理解していれば、応用的、発展的な問題に対しても与えられた情報を論理的に分析することで、解答できるものとなっている。
・生物では一つ一つの現象や反応が独立して起こるのではなく、それらが相互に関連して生命現象として体系化されている。断片的な知識を習得するだけでなく、それらがどのように体系化されているのかを考える習慣をつけてもらいたい。
・必要な情報を図表から読み取り適切に解釈する力や、自分の考えを論理的に文章にまとめる力を養ってもらいたい。
・文章の作成にあたっては、読み返し、意図を適切に伝えられているかどうかを確認する習慣を、身につけてもらいたい。

教科書に書かれている知識を習得し、それを活かした論理的な思考力と科学的な表現力を有する受験者を選抜することを目指した。また、図表から必要な情報を読み取る力や実験に関する文章を読んで解答を導き出す力を試した。

教科書に書かれている知識を習得し、それを活かした論理的な思考力と科学的な表現力を有する受験者を選抜することを目指した。また、図表から必要な情報を読み取る力や実験に関する文章を読んで解答を導き出す力を試した。

※出題内容・形式・配点は一例です。年度・試験日によって、異なることがあります。
 ※合計点が各学部(専攻等)および各入学試験方式の科目の配点と異なる場合は、得点換算を行います。

情報

〈出題内容・形式・配点〉

内容	形式	配点	試験時間
I 情報技術全般	マークと記述を併用	30	80分
II アルゴリズム	マークと記述を併用	25	
III モデル化	マーク	20	
IV プログラミング	マーク	25	
合計		100	

【出題の基本方針】

高等学校で学ぶ情報Ⅰの範囲における基礎的な内容の理解の程度を問うことで、本学の学部で学ぶために必要な知識や論理的思考力などを評価することを目的とした。用語暗記を確認する類の出題は控えめに、与えられた問題文から読解力と論理的思考力に基づいてかに解を求められるかを問う出題に重点を置いた。

- I コンピュータ、ネットワーク、情報セキュリティ、情報表現、情報デザイン、データの活用、論理回路に関する基礎知識をもっているかを確認し、さらに知識を活用して解を導く力を問う。
- II 組合せ最適化の問題を解決するための計算手順を通して、問題解決の方針に対する理解力を問う。
- III 作業手順を状態遷移で捉えるモデル化を通して、論理的思考力を問う。
- IV 問題解決の方針を与えた上で、プログラムの作成能力を問う。

【学習のポイント】

- ・高等学校で学ぶ情報Ⅰの各単元において、さまざまな情報技術に関する基礎知識を身につけておくことが重要である。このためには、教科書による学習を基本とし、そこに現れる用語の概念を理解し、正確に答えられるようにしておくことが望まれる。
- ・用語を暗記するだけでなく、用語の持つ意味を理解することを心がけることが大事である。これにより、情報技術に関する知識をさまざまな場面で活用できるようになる。そのためには、知識の応用場面を常に意識した学習が効果的である。
- ・大学では、与えられたデータやそれを加工した情報から、問題解決の方針を立てることが求められる。入試問題においては、問題文の中で一定の状況を設定し、その読解から問題解決の方法が誘導されるようになっている。そのため、文章を正しく読み解く力と論理的思考力が問題を解くのに必須である。文章全体から、何と与えられているのか、解として何を求めればよいのかを見つけ出し、問題解決の方針をいち早く考えつことが重要である。そのためには、本質的な部分を残して問題を単純化・抽象化するモデル化の方法、問題を解決する手順であるアルゴリズムに普段から慣れておくことを勧める。なぜこのデータを収集するのか、なぜこの方法でデータを整理するのかを常に意識しながら、練習問題に取り組むことが重要である。
- ・プログラミングでは、プログラムの基本構造として、順次実行、選択(分岐)、反復(繰り返し)の概念、およびそれらの記述方法を理解しておくことが必須である。変数、代入、配列、関数といったプログラムの基本要素についても十分に学習しておくことが望まれる。そのためには、完全なプログラムを作成することを最初から目標とするのではなく、与えられたプログラムを理解することから始めるのがよい。プログラムを読んで、どのような順番で各命令が実行されるのか、変数の値がどのように変化するかを追跡することで、最終的にプログラムが何を計算しているのかを示せばよい。たくさんの数および種類のプログラムを読むことで、プログラム作成の能力は確実に向上する。
- ・文章の読解力や論理的思考力を判定するため、問題文が長くなることがある。長く構造化された文章の読解に慣れておくことが大事である。

経営学部で学ぶ感性

〈出題内容・形式・配点〉

内容	形式	配点	試験時間
I 論述	記述	30	120分
II 論述	記述	30	
III 論述	記述	40	
合計		100	

【出題の基本方針】

本入試における出題の基本方針は、経営学部で学ぶ上で期待される総合的な感性の力「発想力、構想力、文章表現力等」といった受験生の総合的な能力(感性の力)を確認することにある。具体的には、受験生が与えられた題材(文章や語句、図や写真など)の背景や意図を読み解き、受験生が学習して培った「知的好奇心」「観察力」「洞察力」「発想力」などの学力を交えた主体的な見解を論理的に整理し(構想力)、その内容を他者に具体的かつ明解に限られた字数で伝える「文章表現力」を評価することを目的としている。

【学習のポイント】

- ・経営学部で学ぶうえで期待される総合的な感性の力、「発想力、構想力、文章表現力等」は、日々の多面的な学習を基礎とするものである。日頃から、経営に関する事柄に関心を持ち、それぞれの事象の背景、要因、各事象の特徴と意義について考えることを心がけてほしい。そのためには、新聞を読みニュースを題材に自分の考えをまとめる作業を行うことが重要である。
- ・社会科の関連の諸科目だけでなく、すべての科目にわたって幅広い教養を身につけておくことが重要である。そのような日々の学習は、「観察力」「洞察力」「知的好奇心」を高める上で有効である。関心のあるテーマについては、新書を読むなどして、基礎的な知識を深めておくように心がけたい。そのうえで自分の考えを展開できれば良い。なお、誤字脱字は減点となるので、パソコンやスマートフォン等での文字入力とは異なる、実際に文字を書いて文章を作成するという練習が不可欠であろう。